

2022(令和4)年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
大山田地域部会 議事概要

- 開催日時 2022(令和4)年6月1日(水) 午前10時00分～午前11時35分
- 開催場所 大山田農村環境改善センター 2階 大会議室
- 出席者 (敬称略)

【委員】

- 出席：奥井 威夫(阿波地域住民自治協議会 会長)
番條 克治(布引地域住民自治協議会 会長)
奥 千史(山田地域住民自治協議会 会長)
中尾 清巳(阿波地区区長会 会長)
中川 博昭(布引地区区長部会 部会長)
宮崎 孝志(山田地区区長会 会長)
滝 弘之(大山田地区老人クラブ連合会 会長)
福平 悟(大山田地区民生委員児童委員協議会 会長)
橋本 敏明(伊賀市商工会大山田支所 支部長)
中森 研(伊賀市社会福祉協議会地域支援課 課長
代理 野田 守)
- 欠席：福地 申大(伊賀市障害者福祉連盟大山田支部 支部長)

【事務局】

- 交通政策課：課長 井上 忠生、主幹 坂森 莊平
主査 稲森 紘子、主査 中川 達司

- 傍聴者 0人

■会議概要

1. 開会 挨拶：交通政策課 井上 忠生課長
2. 部会長、副部会長の互選について
(互選結果・敬称略)
部会長 奥 千史(山田地域住民自治協議会 会長)
副部会長 福平 悟(大山田地区民生委員児童委員協議会 会長)
3. 協議事項
・新たな運行形態導入検討について
事務局から資料1-1に基づき説明。
委員から資料1-2に基づき意見を聴取。

【質疑応答】

事務局	①地域のみなさまの「外出手段」は、やはり車中心のスタイルでしょうか。またその場合、お年寄り等は、自分で運転、誰かの送迎・同乗等のどちらが多そうでしょうか。
-----	---

部委員	車の利用が多い、自転者やバイクの利用より多い。
部委員	高齢の方でも車を運転している。90歳の方でも車を運転している。車を運転できない人は、家族に病院や買い物に送り迎えをしてもらっている。
部委員	一人暮らしで身内がない方は、バスを利用されている。 私の住んでいる地区は坂が多いので、自転車やバイクを使うことができず、車の利用となっている。
部委員	路線バスとか、行政バス、廃止代替バスの概要を説明してほしい。
事務局	「阿波線」というのは、三重交通の営業バスで三重交通が自分たちの営業のために会社として運行しているバスです。となりで走っている「友生線」は、廃止代替バスで、元々三重交通の営業路線で運行していたが、採算がとれないので三重交通が辞めたいと申し出たが、辞めてもらいたくないから赤字を全部市の税金で補填して運行してもらっているのが「友生線」です。三重交通が同じようなバスで走っている路線でも、営業路線という三重交通が営業用に走っている路線と、市が赤字を補填して運行してもらっている路線と、2つある。これがまず、三重交通が大きなバスで運行している路線です。 そして、次に行政バスというのは、上野は、「にんまる」という名称で三重交通に委託し運行し、大山田では白い箱のバスで伊賀交通に委託し、すべて市のお金で運行してもらっています。基本になる阿波線などに繋ぐために運行しているのが、行政バスです。
部委員	大山田の行政バスの時刻表はありますか。
事務局	あります。大山田では「どんぐり号」という名称で運行していますが、ただ、大山田管内では、布引地域と山田地域で運行しており、阿波地域には、三重交通の阿波線があり競合しているため、行政バスが走っていないのが現状です。 デマンドは、家の前まで迎えに行ったり、使う方に特定して、予約制みたいに、買い物に行きたい人がいたら、その人の家まで迎えに行って、予約がなければ運行しないという、自由度の高い運行形態をしようということで、デマンドにも色々形態があります。
部委員	「どんぐり号」の時刻表を各戸配布でもらったことがある。ここ2・3年はない。 最新の「どんぐり号」の路線図と時刻表を各戸配布してほしい。
事務局	わかりました。
部委員	阿波地域では、自分で運転される方が多い。7・8年前から阿波地域の自治協議会では、社協さんに協力いただき、「まごのて号」を運行している。コロナ禍でここ2年は運行できていないが、毎回

	<p>検討会議を開催し、早く再開したいと思っている。上野までは行かないが、山田のアニーズまで買い物に行けたり、1回新堂のコミリに行けたり、重たい荷物を運転手が家まで運んだりしており、大変喜ばれている。皆さんワイワイ言って乗っているの、それを楽しみにされている方もおられ、いつ再開するのかと言われている。</p>
部委員	<p>やはり車中心で、お年寄りや体が不自由になれば子どもに乗せてもらい病院等に行く。基本的に元気に歩いて、車のない人がバスを利用されると思う。バスを利用される方が、実際どれくらい地区にいるのかを把握しないとイケない。バスを利用する人を把握してから、その方に時刻表を配布するとかした方が良い。まずは、そういうところから始めた方が良い。</p>
部委員	<p>阿波の自治協さんと協力して「まごのて号」を運行している。コロナ禍で今は中断している。今月にも話し合いがありますので、再開に向けて検討したい。</p> <p>外出手段のことですが、相談に乗っていて難しいと思うのが、お買い物については、コロナ禍になってから宅配や「とくし丸」というぎゅーとらさんがやっている移動販売などが増えているが、病院へ行く、診察に行くその手段が難しい、通院のところがうまく繋げられないというのが課題と思っている。</p>
部委員	<p>布引地域は、「どんぐり号」が朝昼晩、3往復してもらっているが、山間地なので、高齢者でも運転をやめたくてもやめられないのが現実。</p> <p>「どんぐり号」は、時刻が自分たちの希望する時間がない。</p>
部委員	<p>この大山田地域は、田んぼや林業などで車がなければ生活ができないというのが現実で、免許を返納できない。</p> <p>三重交通のバス停まで遠いという意見を良く聞く。</p>
事務局	<p>「どんぐり号」を利用される方は、ほとんど決まった方で、東診療所へ通院やアニーズへの買い物で、固定された方が乗っておられます。</p> <p>「どんぐり号」の乗降者数が増えているのは、小学生が行政バスに乗ってもらうようになったからで、通学以外に使われている方はわずかです。</p>
部委員	<p>どれだけの人がバスを利用するのかを知ることが重要。</p>
部委員	<p>布引地域へのバスの時刻は、虹ヶ丘線のスクールの時間に合わせてあるため、使いにくい。</p>
部委員	<p>三重交通の阿波線は、昼間を除いて約1時間に1本走っており、結構走っている。</p> <p>高齢者の方々も皆さんも、まだまだ元気なので車を運転する、デ</p>

	マンドにしたとしても、当分、赤字は続くのではいか。
事務局	その辺が難しい。新たな運行形態が、例えば、月曜日と水曜日は山田地域の方の要望を聞く曜日で通院や買い物に行くとか、あとの3日間は、阿波と布引地域の要望を聞いて予約制にするとか、そういうことで対応できるのかなど。なおかつ、小学生たちの送り迎えをそのバスを使うのが大山田地域では大前提です。というのが課題です。
部委員	都会のバスは満員で、人口が多く、逆に車で行って駐車場がない。田舎は、人口が少なく、駐車場がたくさんあって、それに当てはまらない。
部委員	自分たちが運転できなくなってくる10年先のことを考えなければならぬ。
事務局	項目の3までは皆さんに意見をいただきました。 あと各自治協さんで「移動サービス」について独自で話し合いが行われたことがあるのか。また、モデル地域になった時に、地域の方々にお手数をおかけすると思うが、今年度、モデル地域をやってみたいという思いが今あるのか。また、他地域を見ながら、来年度くらいからやってみようかというのもあります。今年に限らず早い段階からやってみたいのか。その辺の意向をお聞かせいただきたい。
部委員	阿波の「まごのて号」は、5年先、10年先に運転手はいるのか。
部委員	それがひとつの課題。運転手不足、今の運転手は高齢化しており70歳が平均年齢で、若い方は定年になってもまだ働いているので、運転手になってくれない。
部委員	「まごのて号」については、今コロナで止まっているが、阿波地域の自治協としてやって行きたいと考えている。
事務局	阿波地域で、「まごのて号」をやってみようというきっかけは。
部委員	ひとり暮らしの方は、バス代が高いという地域の声もあり、自治協が考え、社協さんに協力いただき、「まごのて号」を始めた。
事務局	「まごのて号」は無料ですか。
部委員	無料となっている。
事務局	お金をとって運行するとなると、運輸局の許可も必要になり。三重交通のバスと競合してはいけないなどの問題がでてくる。
部委員	布引自治協ではネットワーク会議では、いつも移動手段についてをテーマに入れているので、住民の意見を聞ける場がある。 その場の意見は、「どんぐり号」が使いにくいとかの意見が多い。 例えば、乗車人数を増やすことよりも、時間を制限して予約制で必要な時だけ運行するようにした方がよいのではないか。
部委員	行政バスを旧市町村エリアで運行しているが、伊賀市としてハイ

	トピアまで行くとか、広いエリアで運行できないのか。
事務局	三重交通の営業路線が阿波線として走っているの、別路線でハイトピアまで行くことは難しい。
部委員	やはり都会と過疎地域の田舎では全然違う。
事務局	田舎は、公共交通を交通手段ではなく交通弱者のものだと思っている。都会は、交通手段として考えているので、そこが大きな違いです。
部委員	伊賀市のイベントに連れていくツアーバスとかは考えられないのか。お年寄り、退屈で話し相手がほしい、イベントに自分ではいけないのでバスがあれば良いのではないか。
事務局	例えば、「さるびの」のバスを桜の時期に山田から人を乗せ阿波へ行くのも良いのではと考えたこともあります。

4. 報告事項

- ・ JR 関西本線について

事務局から資料2に基づき説明。

【質疑応答】

部委員	昔、SL が走っていた。ゴールデンウィークとか走らせたなら良いのではないか。また、高山のトロッコ列車も良い。 乗るのを待っているのではなく、いかに乗らすかという発想が必要。この問題は、行政だけに任せるのではなく、皆で考えなければならぬと思う。
部委員	個人的な意見であるが、海だったらフェリーであるが、車を列車に乗せて目的地まで走らせたなら良いのではないか。
部委員	私たちの意見より、若い方の意見を聞く方が良い。
部委員	JR 東海と JR 西日本の乗り継ぎが悪いので、待ち時間が長い。 電化をしたら、ディーゼル車より強いので良い。
事務局	今は、時代が進んでいるため、電車ではなくハイブリット車のような新しい乗り物のほうが良いかもしれません。
部委員	例えば、上野の天神祭などに行くには、この電車やバスに乗って行けるなど、行き方を周知し、乗ってもらうことも重要ではないか。

5. その他

特になし

(終 了)